



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Build The Future with Action and Vision

築け未来を行動力と先見の眼で

1996~97年度・国際ロータリーのテーマ/ルイス・ビセンテ・ジアイ会長

◎本日の例会

6月6日/第514回例会

◎卓話「噛み合わせと全身症状」

日本歯科大学教授 小林 義典 氏

◎先週報告

5月30日/第513回例会

◎卓話「事故の現場に医者はいない FIRST AIDについて」

(株)サンゼン社長 東京マリーンRC会員 塚田 康盛 氏

◎幹事報告

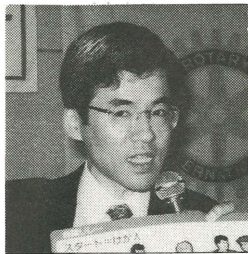
①6月20日(金)は昼間の例会を変更して、夜間例会/レディス・デーを開催いたします。当日はゲストスピーカーに作詞家・作家の阿久 悠氏をお迎えして、「歌は時代を語り続けた」のテーマで卓話を頂戴いたします。ご家族の皆様お揃いで大勢のご出席をお待ち申し上げます。

②97~98年度版「ロータリー手帳」を購入申込みの方へ配布させていただきます。

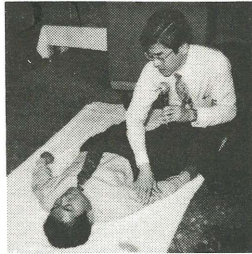
◎出席報告●会員69名・出席48名・欠席21名(出席規定免除者1名)

ビジター(10名 敬称略・順不同)/RICHARD J. BEYER, WILMA BEYER(AKRON-NEWSTEAD)、柴崎芳男(東京自由ヶ丘)、佐久間喜美子(東京恵比寿)、酒井重人、田村達也(東京日本橋)、ファウベル、松木康夫、鈴木謙一、杉山民治(東京南)

ゲスト(1名)/富岡洋一氏(ゲストスピーカー塚田氏同伴者)



塚田 康盛 氏



順不同・敬称略

5月30日/12件40,000円

本年度累計 2,336,838円

多額のご寄付を有難うございました。

保森 登/塚田さん、富岡さん、本日の卓話よろしく御願います。田中 武/母葬儀の際にはクラブはじめ大勢の方から御甲意を賜りありがとうございました。小沢先生ご面倒をおかけしました。金光圭一/新会員です。よろしく御願います。四分一勝/先日の誕生祝有難うございました。高橋先生、お目出度うございます。佐々木忠行/青野さん、吉岡さん、高須さん、ゴルフ同好会ではお世話になりました。荒木昭文/ニコニコ加藤さんご苦勞様です。関さん世話人ご苦勞様でした。沖 宏之/高橋先生、加藤さんご苦勞さま。高須康有/小杉真史さん、先日は委員会会議ありがとうございました。柴田尚毅/久しぶりになってしまいました。西澤正雄/メーキャップが続きました。岩瀬秀郎/本日より会報担当となります。宜しく御願います。加藤昌明/ニコニコ有難うございました。

◎97~98年度地区協議会

とき/97.5.20(火) ところ/新高輪プリンスホテル国際館バミール ホストクラブ/東京京浜RC

1. [本会議]

5月20日、新高輪プリンスホテル国際バミールにおいて2750地区84クラブの次期会長、幹事、4大奉仕、ロータリー財団、米山奨学、新世代の各委員長の総勢800名余りが一堂に会し、中村ガバナー、岩井ガバナーノミニと共に、一日熱心な討議が行われた。特に、RIキンロス次期会長のメッセージが示され、世界平和のため、又飢餓と貧困をなくすため、単に金銭、物を与えるだけではなく、120万会員の一人一人の活動を通じて貢献してほしいとの要請があった。更に、職業奉仕はロータリーそのものである、また4大奉仕を通じて「ロータリーの心を」示してほしいと強調された。

2750地区については各委員会組織はタテ割りだが、それに調整機能を持たせ、関連委員会の連係、グループ会議等を推進したい、そのために、ガバナー直轄の地区組織検討委員会を設けたとの説明があった。

又、地区運営改革の一環として、「地区リーダーシップ・プラン」(別記)を一部採用し、ガバナー公式訪問をより効率的に行い、地区特にガバナーの負担を軽減したいとの意向が示された。

その後、分科会に分かれ、午後3時過ぎに再度本会議場に全員集まったが、殆ど退席者もなく、充実した地区協であった。最後に、中村ガバナーより、2750地区は世界518地区の中でも上位にある、それを維持発展させるためにも、ロータリーはあくまでもクラブ単位が原則であると結ばれた。(渡部)

(2)ロータリーの目的について、リーダーの漆崎義雄元研修リーダーが、ロータリーの目的はロータリー綱領そのものであると綱領の講義があった。

(3)地区予算、地区資金について、(4)質疑応答、内容は、リーダーシッププランについて、新会員教育実施要項、RI会長賞プログラム参加について、意義ある業績賞、ガバナー賞への目標、クラブ運営の問題点等であった。

●幹事部会

渡部次期幹事

地区リーダーシップ・プランの具体的な運用に多くの時間が割かれた。従来のガバナー公式訪問は時間と労力に多くの負担がかかり、翌年の2月、3月までズレ込み、効果的ではない。そのため、最寄りあるいは関連のロータリークラブが複数集まって行う合同のガバナー公式訪問を原則とし、12月までにすべての公式訪問を終えるようにしたい。但し事情により、単独の公式訪問もありうる。(当クラブもその一つ。公式訪問予定の10月3日(金)は当クラブ創立記念日に当たるため。これについては後日説明。)

ガバナー公式訪問に併せ行うクラブ協議会は別途設定、ガバナーの代わりにガバナー補佐が出席することになる。但し、2750地区においては、当面ガバナー補佐の職務は、分区代理が行うものとする。(当クラブは従来通り公式訪問日にクラブ協議会を行う予定。)

その他、国際交流、会員増強、ロータリー財団、米山、会長賞等について熱心な説明と討議が行われた。

●クラブ奉仕部会

山下次期クラブ奉仕委員長

テーマ: 1.クラブ奉仕委員長の責務について
2.楽しい例会と情報の伝達について
3.「ロータリーの友」講読とクラブ広報について
4.会員増強について

2. [分科会]

●会長部会

武下次期会長

会長部会のテーマは、(1)クラブ会長の役割と責務について、カウンセラーの矢野洋四朗バスターガバナーが担当。内容は、会長はクラブの顔である、情熱があればクラブは活性化する、RIの方針の推進、基本は職業奉仕である。

5. 新クラブ拡大について

上記テーマについてカウンセラーの秋山バストガバナーを初め、サブリーダーの鈴木次期地区R情報委員長、伊東同雑誌広報委員長、小松同会員増強委員長、鈴木同拡大委員長より総論的な説明がなされた。その中で特に強調された事項を挙げると次のようである。

1. クラブ広報…地域社会で、どれほどの人がロータリーの存在を知っているか、認識されているか。ロータリーのあるべき姿を地域社会に知らしめることが必要である。そして、会員の全てが「ロータリーとは何か」を聞かれたとき、簡明に適切な表現で答えられるようにしてほしい。
2. 会員増強…①過去5年間の会員増減表を作成してほしい。②会員100名未満のクラブは10%、100名以上のクラブは5%を地区最低増強目標としたい。③地区の退会者を3%以下に抑えたい。

●職業奉仕部会

宮本次期職業奉仕副委員長

まずは松阪リーダーより「超我の奉仕」の真の意味をどなたかご存じかとの質問。答えは利己心のみでなく利他心を持ち、人のために心がかげながら事業を展開する事であるとの話。そしてそれを自分の生活の豊さ、幸福に結びつける。REAL HAPPINESS IS HELPING OTHERS、が理念である。

ロータリーの設立時の基本理念として、ポールハリスが職業を分類し、一業種一会員として、当初はお互いに情報を分かち合い、自分の良心に恥ないような仕事をするべく心がけ、そして利益を得た。

そのロータリーが活動を広げて社会奉仕や国際奉仕を行うようになるに伴い、職業奉仕の部分が軽視されがちとなりつつある。『ロータリーの友』の5月号に佐藤千壽氏が前回のアナハイムの国際協議会にて、増強や財団の話が主体となり、職業奉仕が取り上げられなかった事に危機感を持っているとの記事が記載されている。ロータリーは曲がり角に来ている。職業奉仕はロータリーそのままである。

以上の説明の他に新しいクラブより職業奉仕活動を具体的にどのように行っているか教えてほしいとの質問があった。

●社会奉仕部会

吉田次期社会奉仕委員長

松原治バストガバナーをカウンセラーに迎え、橋本善蔵(町田)次期地区社会奉仕委員長がリーダーとなり、各分区分毎にテーブルを分けて「社会奉仕」「環境保全」の二つのテーマについて会が進められた。

社会奉仕については、リーダーから岩井次期ガバナーが日本ユネスコ協会連名理事長より、非識字者を失くすための「世界寺子屋運動」への協力要請を受け、自ら地域住民としてトライして見た結果の手応えにより、地区社会奉仕委員会にこの運動の推進依頼があった旨説明された。具体的には、書き損じの官製ハガキを回収し、それをユネスコに寄付し、ユネスコで換金して発展途上国に簡易学校を造り、読み書き、算数を教えて非識字者を失くし、彼らを貧困から脱出させる運動に役立てるというもの。強制ではないが各クラブ極力協力して欲しい旨要望があった。

環境保全については、殆ど時間が取れず、改めて委員長会議を召集し、意見交換をしたいということで終了した。

寺子屋運動については、クラブ内で十分検討の上取り進めたい。

●国際奉仕部会

関次期国際奉仕委員長

大きく5つの内容を取り上げ、ご説明いただきました。

1. バギオ基金推進の歴史と現状
太平洋戦争で大きく変わったバギオ市の日系人。その救済基金が287のロータリークラブで構成されている。
2. ポリオ・プラスパートナーの現状
いま、137の地区の525のクラブがこのプロジェクトを支援することを表明している。
3. GSEの現状
今年度の研究グループ交換(GSE)の年度内の特別なプログラムはありません。
4. 日韓親善の現状

韓国の第3650地区と当地区は地区大会の相互訪問をきつ

◎次回予告

6月13日/第515回例会

◎本年度第6回・新年度第1回クラブ協議会

テーマ「本年度各委員会活動報告と新年度各委員会活動計画」

東京新南ロータリークラブ

会長：河原勢自 副会長：保森 登 幹事：荒木昭文

〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

かけに、89～90年、田辺ガバナー時に姉妹地区契約締結。以後青少年交換が柱となっている。

5. 国際ロータリーが提唱するホームスティ・プログラム

はじまったばかりの国際交流委員会、国際間の異文化の理解がこれからは、重要になっている。

●ロータリー財団部会

二宮次期国際奉仕委員長

地区財団委員長川畑精史氏、同奨学委員長福井衛氏、同補助金委員会副委員長村田修氏、同両財団増進委員長吉岡良一の各氏から順次資料により説明があった。それぞれの主要点を要略すると、

1. 財団のプログラムは「ハード」以上に「ソフト」が大切である。

(1)ロータリーの目標と理想をかなえ、ロータリアンの心をとらえるプログラムの開発が必要、(2)教育的プログラム以外にも人道的プログラムの開発を重視する。

2. シェアシステムと地区財団活動資金(DDF: District Designated Fund)に関する説明

3. DDF選択プログラム(以下)の項目についての説明

(1)人道的プログラム、(2)教育的プログラム、(3)プログラム強化、(4)寄贈

4. 財団奨学委員会としては派遣奨学生に対して約4年間かかるので継続的ケアが重要であり更にOBの校友会活動にも注力が必要である。

5. 補助金委員会としては、(1)同額補助金、(2)Helping Grant、

(3)カールミラー助成金などでありDDFの活用もはかりたい。

6. 両財団委員会からは、97～98年度財団への寄付目標について各クラブ会長宛アンケート(寄付目標額等)の依頼と目標達成に対する要請があった。

●米山奨学部会

西澤次期国際奉仕副委員長

テーマは米山記念奨学会の現況と寄付目標額のお願いということでした。冒頭事業内容と目的について来日する留学生を対象として前途有能な青年たちを育成し国際理解と親善に寄与することが目的である事、そして単に奨学金を支給するだけでなく、カウンセラーと世話クラブによって心の通じる精神的支援をすることが特色である点説明があった。

多くの協力を得て今や世話クラブも780に達し全クラブの略3分の1になっており寄付金も年間20億円を超え、留学生も1,000名規模になっている。

留学生は韓国320名、中国230名、台湾200名で占めている等の説明があった。

ガバナーからも皆様のご理解により大変に順調に推移しており留学生もみな優秀である。次年度の寄付目標は今年度目標を上回ることが出来るようご尽力願いたい旨ご挨拶があった。

●新世代部会

村山次期社会奉仕委員長

新世代委員会は、ロータアクト、インターアクト委員会を母体にして、国際奉仕委員会から青少年交換委員会を移設し、さらに新しく地区学友委員会を加えたものである。各クラブにおいては、従来通りの委員会構成でも構わないということである。「21世紀を背負う若者を育成するための委員会として、その活動に力を入れたい」と岩井次期ガバナーからも説明があった。

次年度のテーマとして、96年6月のRI理事会の決定による新世代のためのロータリープログラムの中にある「新世代のための会議」を開催することがあげられた。各クラブの積極的な取り組みが要望された。当初は同一地域の数クラブで行うのがよいのではないかと示唆もあった。

ロータアクト、インターアクト、青少年交換の各委員会の報告・討議とともに新設の地区学友委員会からも説明があり、詳細はこれからとしながらも、ロータリーと関係の深いあらゆる若者の組織化を図り、ロータリーの「奉仕の理想」の精神を高揚し続けることを目標にしたいとあった。

最後の点については、「将来のロータリアンの輩出母体としたい」といわれた岩井次期ガバナーの話とは多少異なるニュアンスを感じた。

<会報委員>

山下 忠治、大村 富俊、伊部 和夫、
大日方 真、柴藤清三郎、相澤 成憲、
島田 昌雄、村山 公士、川鍋 二郎、
関 征春、宮本 正祥、岩瀬 秀郎

(編集担当順)